

**Taft, Robert. *Photography and the American Scene a Social History 1839-1889*. Dover Publications, 1964.**

・アメリカへのダゲレオタイプの紹介は、1839年3月初旬ボストン Mercantile Journal において、タルボットの実験と対比的にダゲレオタイプについて紹介される。ワシントン National Intelligencer においても 1839年3月7日に同記事が紹介される。一か月後、モースによる記事がアメリカの新聞各紙に紹介される。もとは、ニューヨーク Observer 1839年4月20日。(8)

・モースが、アメリカで最も初めにダゲレオタイプにかかわった人物だと推察される。(9)

・1839年10月に American Journal of Science and Arts (New haven)において、ブリティッシュ・クイーン号によって輸入された初めてのダゲレオタイプのプリントについて紹介。同年9月 Morning Courier とニューヨーク Enquirer が、ポーツマスにて、9月3日に、8月19日作成のアラゴ版ダゲレオタイプ解説書が船に運ばれたことを報じる。1839年9月20日についにアメリカにて写真の実験が始まったことが記録されている。(14)

・モースは1839年9月に初ダゲレオタイプを成功したという。ニューヨーク市立大学の3階の階段の窓からの Unitarian church (15)

・初期のダゲレオタイプストのひとり、Mr. Seager、あまり詳細は分からない。(17)

・1850年頃までダゲレオタイプは隆盛していた。例えば1850年に出版されたホーソーンの『七破風の屋敷』にてダゲレオタイプが登場する。(63)

・1851年にイングランドのクリスタル・パレスでの万博にてアメリカのダゲレオタイプが高い評価をうける。ニューヨークからマシュー・ブレイディ、M. M. Lawrence、ボストンから John A. Whipple (69)

・タフトは、アメリカでのダゲレオタイプの隆盛を、かの国の工業的精巧とその競争性によると指摘する。(72)

・ブレイディとローレンスは1853年にニューヨークで商業の規模を拡大。Whipple と Haws はボストンにて最大級の店舗を持つ。フィラデルフィアにて、M. A. Root と McClees と Germon がその業界をリードする。Jesse H. Whitehurst はいくつもの街にギャラリーを持ち、よく知られた人物のひとりである。(76)

・ダゲレオタイプの大きさはロケットサイズの小さいものから、15×17のサイズまでであった。

one-six size (2 3/4 × 3 1/4)

one- fourth size (3 1/4 × 4 1/4)

half-plate (4 1/4 × 6 1/2)

whole plate or 4/4 size (6 1/2 × 8 1/2)

double whole plate (8 1/2 × 13)

最もポピュラーなモノで、one-six size (2 3/4 × 3 1/4)で、次に one- fourth size (3 1/4 × 4 1/4)

という (78)

・ダゲレオタイプ時代の記録については、二つのジャーナルが有益——S. D. Humphrey による The Daguerrean Journal (ニューヨーク)、初稿 1850 年 11 月 1 日から 1870 年まで断続的に出版、H. H. Snelling による The Photographic Art Journal (ニューヨーク)、初稿 1851 年 1 月 (84)

・カラーのダゲレオタイプについてヒルによる手紙が、Snelling 宛てに 1851 年 2 月 4 日付で送られている (88)

・1853 年にダゲレオタイプの受容は絶頂を迎える、1854, 55 年とそれは広く実践されていたものの、1850 年代後半以降、コロディオン湿版が普及していった。1870 年代の末頃にはニューヨークにてダゲレオタイプピストは一つ、二つとなっていた。1865 年委はほとんどその営業は亡くなっていたとも推察できる。(101)

・タルボットは、ネガを支持体に定着させる方法について考えていたと語り、ジョン・ハーシェルも、Draper 教授に手紙でこれを示唆していた。1839 年 3 月 14 日にロンドン・ロイサル・ソサエティを尋ねた「Note on the Art of Photography, or the application of the Chemical Rays of Light to the purposes of Pictorial Representation」(104-105)

・ハーシェルのレポートにおいて興味深いいくつかの点——Photography という用語の使用、ネガポジ法についての言及、ハーシェルはこの方法の利便性に気づき、1840 年にはネガティブ、ポジティブという用語を確定する。(105)

・イギリスの特許において、タルボットは画像の定着について、1841 年 2 月 8 日に認められ、アメリカにおいて 1847 年 1 月 26 日に認められたことが、各国での広がりや邪魔したことは明らかである (108)

・また、初期において、タルボタイプの画像の不鮮明さや時間の長さなどにおいて、ダゲレオタイプの後れを取ったことは明らかである (109)

・ダゲレオタイプよりもタルボット、ハーシェルらの写真術がより近代的なモノだったことは言うまでもないが、その画像の鮮明さによって、ダゲレオタイプは初期の人気を確固たるものとした。ただしハーシェルは複製の重要性に気づいていた (113)

・ガラスネガの導入が行われたのはアメリカであった、Alexander Wolcott による。1843 年にその実験について手紙を書いている、またボストンの Whipple もそうした実験に取り組んだひとりであった。(114)

・1849 年初頭にガラスネガの利用が始まるが、ボストンの Whipple、フィラデルフィアの Langenheims がその先陣を切った。(117)

・アンプロタイプは、主にポートレートに用いられた (127)

・1850 年代後半の写真術の移り変わりは、報道の記録だけでなく展覧会においても観察できる (128)

・コロディオンプロセスを学んだ、アレクサンダー・ガードナーを、ブレイディが 1856 年に連れてくる。アンプロタイプは 1857 年頃に需要が落ち、紙支持体の写真が広がり始める。

(130)

・1860年頃までほとんどの写真史をダゲレオタイプが占めているが、紙支持体の写真が1850年代末頃から登場し始める。(136)

・家族アルバムに用いられた小型の写真は *Carte de visite* と呼ばれ、2 1/2 ×4ほどの大きさで下に少しゆとりのあるマット装され、プリントはほとんど 2 1/8 ×3 1/2 を越えない。パリの宮廷付き写真家ディスデリに紹介され、ロンドンを経由し、アメリカに持ち込まれた。1859年に写真誌にて紹介される。(139)

・ニューヨークにて C. D. Fredricks、Geroge Rockwood、S. A. Holmes らがアメリカでの第一人者。Rockwood は、ロスチャイルドを 1859 年秋に撮影した自身のものがアメリカでの最初のものだと主張する。1860年には、国中で人気となる。(140)

・これは写真ビジネスの規模を拡大した。(143)

・*Cartes de visite* 以降、鶏卵紙の利用が一般化し、鶏卵紙は、ドイツやフランスから輸入された。(144-145)

・およそ 1861 から 66 年がその人気の最盛期であり、対抗馬としてはティンタイプが挙げられる。その隆盛の理由としては 2 点——市民戦争において若者が写真を携帯することを望んだこと、大量印刷技術がいまだ不完全だったこと。大量印刷技術は 1880 年代以降確立するものであった。(148-149)